

6 総合病院における GHQ (精神健康調査票) の有用性

金安 亨太・山田 治*・鈴木 康一**
松田ひろし***

立川総合病院臨床心理
悠遊健康村病院精神科*
東京医科大学精神医学教室**
柏崎厚生病院精神科***

【はじめに】 当院ストレス外来では、受診者は週に100人を超え、初診患者さんは週に10人前後である。この限られた診療時間内で、受診者の状況を把握することの一助として、初診の患者さんにはGHQを実施している。今回はその検査結果を検討し、より一層の活用の可能性を探る。

【内容】 GHQは60問からなる質問紙票であり、「GHQ得点」の他に、「身体的症状」「不安と不眠」「社会的活動障害」「うつ傾向」という4つのスケールが見いだされている。そこで下記の諸点を検証した。

GHQ得点・4要素スケールと、各疾患との関連
GHQ得点と通院期間との関係
4要素スケールと主訴の関連
その他の特徴的な反応について

【対象】 H13.1～H14.7の初診患者についてのGHQデータ(409件)

【結果】 以下のような結果が得られた。

総合病院精神科外来では、GHQ得点が高くなりやすい

各要素スケールには、各疾患に特徴的な症状との関連が見られた。特に自殺企図においては特異的なパターンを示している

GHQ得点と通院期間には、弱いながらも正の相関がみられる

各要素スケールと主訴との間にも関連が認められる

以上のことからGHQ検査は簡便ながらも、その人となりを示す指標として、初診時には一定の有用性を持つと考えられる。

7 平成13年度県立小出病院精神神経科におけるコンサルテーション・リエゾン統計

坂井美和子・川村 剛・中島 悦子*
田崎 紳一・高橋 邦明

新潟県立小出病院精神神経科
ほんだ病院精神科*

新潟県立小出病院は北魚沼地域医療の中核となる総合病院である。身体診療科は内科、外科、整形外科、脳外科、産婦人科、泌尿器科、眼科、小児科であり、入院病床数400床のうち270床を有する。当院精神神経科はコンサルテーション・リエゾン活動を積極的に行っており、年々その比重も高まっている。今回、平成13年4月から平成14年3月まで、身体科入院中当科へ診察を依頼された症例を対象に、往診記録に基づき年齢、性別、診断の統計を行い、当科に求められている役割について考察した。

症例は、年齢18歳から95歳までの総数181名、うち男性は84名、女性97名、精神科受診歴のないものは56名だった。依頼科は内科82名(45%)、整形外科44名(24%)、外科21名(12%)、脳外科16名(9%)、泌尿器科9名(5%)、産婦人科7名(4%)、眼科2名(1%)、小児科は依頼がなかった。精神疾患の診断カテゴリー別では、全体群での比率の高い疾患は、気分障害40名(22.1%)、痴呆35名(19.3%)、せん妄31名(16.6%)であったが、精神科受診歴のない患者群では、せん妄が21名(37.5%)と圧倒的に多く、以下気分障害11名(19.6%)、痴呆8名(14.3%)と続いた。

北魚沼地域では患者の高齢化の急速な進行とともに、痴呆患者が急増している。また比較的健康であった高齢者でも容易に抑うつ状態やせん妄をきたし当科を受診するケースが多かった。また精神科受診歴のある場合は、入院による精神症状の悪化を懸念され、診察をあらかじめ依頼され、特に大うつ病性障害や統合失調症の患者には顕著であった。

今後も他科と一層診療提携を強化し高齢者のケア、精神疾患への理解を高めて行き、地域に密着した精神科診療を行う必要性を示唆された。